

○日 時:平成 30 年 12 月 10 日(月) 13:00～15:00

○場 所:東京大学 浅野キャンパス 工学部 12 号館 2 階 222 号室

○出席者:

主査:加藤 氏(横浜薬科大学)

幹事:高橋 氏(大阪大学)

梶垣 氏(東京大学)

二ツ川 氏(日本アイソトープ協会)

古田 氏(大阪府立大学)

三浦 氏(高エネルギー加速器研究機構)

米内 氏(量子科学研究開発機構)

オブザーバー:

佐藤 氏(東京電力)

菅井 氏(千代田テクノル)

議 長:加藤真介主査

配布資料

- ・放射線安全文化の醸成に関するアンケート
- ・アンケート集計結果中間報告書
- ・集計者コメント(小芝氏)

## 議事概要

### 1. アンケート集計結果の報告

これまでに実施したアンケート集計結果について加藤主査より以下の説明があった。

現状 119 件の回答を得ており、今後も幾つかの学協会からの回収が見込まれる。アンケートの収集は 2019 年 3 月末を目処に終了し、4 月以降はアンケート結果の分析を主たる活動としたい。

上記について了承され、今後のアンケートは、「保物学会シンポジウム(1/12)」「放射線障害防止中央協議会(東京 2/25、大阪 3/1)」「環境放射能研究会(3/12-14)」「原子力学会(3/20-22)」「JRC2019(4/11-14)」にて実施することとなった。このうち「原子力学会」は参加者の属性を考えると、他とは違った傾向を示す可能性があるとの意見があり、全体の解析に含めるかどうかは回収後に判断することとなった。

### 2. アンケート集計結果の分析

集計結果に対して、項目ごとに今後の解析方法について以下の議論が行われた。

#### 2-1. アンケート回答者について

・アンケートの母数は妥当なのか？

→現状 130 件の回答があり、今後も増えることを考えると解析する上で支障は無い。

・回収した分野に偏りは無いか？

→医療機関が少ないが、民間、教育、研究は同程度あり、バランスはとれている。

・回答した年代に偏りは無いか？

→20代が少なく、30代、50代が多い。放射線管理に関するアンケートのため、その業務の中心となる年代が主な回答者になったのではないかと意見があった。ユーザーの意見を集められたら、20代が多くなるのではとの意見があった。

**2-2. 安全対策の優先度・達成度について**

・ほとんど変化は見られないかもしれないが、施設規模による違いについて追加の解析をしてはどうかとの意見があった。

・上記と同様、使用線源による違いについて追加の解析をしてはどうかとの意見があった。

**2-3. トップおよびリーダーの安全活動への関わりについて**

・主任者は主任者をリーダーと考えているのか、実務者や委員会のメンバー等は誰をリーダーと考えているかなど、誰が誰をトップやリーダーと考えているかを解析してはどうかとの意見があった。

・トップおよびリーダーが安全活動に関わっているか否かについては、他の結果に比べて顕著なばらつきが観られた。この項目と所属・施設のパラメータを掛け合わせた解析をしてはどうかとの意見があった。

**2-4. 意思決定における取組について**

・必要性の程度と達成度についての回答が、立場の違いによりどの程度異なっているかを解析したらどうか、さらに所属施設という第 3 のパラメータを掛け合わせた解析はできないかとの意見があった。

**3. アンケート全体に対する議論**

集計結果の表記法や今後の解析について以下の意見があった。

・質問の回答ごとに総数を入れると分析の参考になる。

・結果は平均値で示されているが、各々にばらつきを付ければ、分析の参考になる。

・職種のパラメータを掛け合わせた解析において、全ての職種について行うと作業が膨大になるため、まずは主任者と主任者以外に分けて行ってはどうか。

**4. 研究会への新メンバー受入**

菅井研自 氏(千代田テクノル株式会社)の新メンバーとしての受入について了承された。

次回会合は平成 31 年 6 月 20 日あたりを目処に開催することで了承された。

以上